

令和５年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

伝統校として受け継いだ三丘スピリット（文武両道、自主自立、切磋琢磨）のもと、高い理想、深い叡智、重い使命を抱き社会に貢献する志を持った発想力豊かなグローバルリーダーを育てる学校。

1 自ら課題を発見し豊かな創造性と論理的思考力を持って解決策を探る力を育む。

2 社会の様々な事象に対して当事者意識を持ち、異文化共生の精神を理解した上で他者と協働できる人材を育てる。

3 確かな学力を育成し、併せて国内外で「ホンモノ」と出逢う教育機会を提供することにより、生徒が自らのキャリアを描く力を育む。

4 機動的な学校運営体制を一層充実させ、教職員のたゆまぬ資質・能力の向上に取り組み、教育活動をはじめとする様々な活動の充実・活性化を図る学校。

2 中期的目標

- 1 自ら課題を発見し豊かな創造性と論理的思考力を持って解決策を探る力の育成
- (1) 学校設定科目「Creative Solutions(以下)CSⅠⅡ」の充実
- ア 探究学習に関する高い授業満足度
- 令和7年度まで「CSⅠ」「CSⅡ」満足度90%以上を維持（R2：CSⅠ94%/CSⅡ93%R3：CSⅠ93%/CSⅡ90% R4：2月末に確定）
- (2) 読書の奨励により自ら課題を発見する力や創造性・論理的思考力を向上
- ア 見聞を広め知識量を増やすことにより自ら課題を発見する力や創造性・論理的思考力を向上させる
- 生徒の読書冊数の向上に取り組み、令和7年度まで平均読書冊数10冊以上を維持（R2：1年8冊/2年7冊R3：1年18冊/2年10冊R4：1年16冊/2年13冊）
- (3) 生徒主体の活動を充実することにより自ら課題を発見し解決策を探る力を育成
- ア 文化祭、体育祭等すべての生徒会主催行事及び部活動を生徒主体で企画・運営させることにより、課題に直面した時も自ら解決策を探る力を育成する
- 「文化祭、体育祭や部活動において生徒は自主的に活動している」（学校教育自己診断）肯定率80%以上を維持（R2：77.6%、R3：83.2%、R4：77.1%）
- イ 教科指導を含む教育活動全般の中で三丘スピリットに謳われている「自主自立」の重要性を指導
- 「自主自立（自律）を尊重する伝統は活かされている」（学校教育自己診断）肯定率80%以上を維持（R2：75.2%、R3：79.1%、R4：81.5%）
- ウ 生徒が主体的に運営する部活動を通じて課題を発見し協働して解決する力を育成
- 入部率90%以上を維持（R2：97.9%、R3：95.3%、R4：96.5%）
- 2 社会の様々な事象に対して当事者意識を持ち、異文化共生の精神を理解した上で他者と協働できる人材の育成
- (1) 異文化理解の基礎となる「4技能を育成する英語授業」の実践
- ア 英語科教員が協働して教材を開発するなど、4技能を育成する英語授業を構築
- 「コミュニケーション等に必要な英語を学ぶ機会がある」（学校教育自己診断）1, 2年生肯定率80%以上を維持（R2：82.2%、R3：82.3%、R4：80.0%）
- (2) 社会の様々な事象に対して当事者意識を持つことをめざした教育の充実
- ア 人権・環境・福祉等に関する教育の充実
- 「人権、環境、福祉について学習する機会がある」（学校教育自己診断）肯定率80%をめざす（R2：84.0%、R3：79.2%、R4：62.9%）
- イ 学校設定科目「CSⅠ」指導内容の充実
- 心理的安全性や協働についての学習を深め、マルチプルインテリジェンスを用いたグループ編成で協働できる集団を構築
- (3) グローバルリーダーとして異文化共生の精神を理解するために必要な海外研修の充実
- ア 米国リーハイ大学・国連研修の実施と内容充実
- イ オーストラリア語学研修の実施と内容充実
- ウ 諸外国から来日した高校生との交流など米国領事館や大阪観光局と連携した事業の実施と内容充実
- 「国際交流に関する取り組みが充実している」（学校教育自己診断）肯定率80%をめざす（R2：81.8%、R3：70.8%、R4：73.8%）
- 3 確かな学力を育成し、併せて国内外でホンモノと出逢う教育機会を提供することにより、生徒が自らのキャリアを描く力の育成
- (1) 第一線で活躍する研究者など斯界のトップランナーに触れる機会の充実
- ア 三丘セミナー、体感校外学習、NASA研修（SSH事業）、実践科学実験の充実
- イ 京都大学キャンパスガイド、大阪大学ツアー、SSH東京方面体感学習、大阪大学医学部体験を含む大学訪問や医療系体験学習等の機会の充実
- (2) 3年間を見通した進路指導プログラムに沿った進路指導・キャリア教育の充実
- ア 進路講演会・懇談会・進路交流会・進路ホームルーム等を充実し進路指導部と各学年が連携した進路指導・キャリア教育を展開
- 「三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている」（学校教育自己診断）肯定率90%をめざす（R2：77.0%、R3：80.7%、R4：86.4%）
- 「進路情報の提供や卒業生との進路交流会開催など、適切な進路指導を行っている」（学校教育自己診断）肯定率90%以上を維持
- (R2：85.4%、R3：91.6%、R4：92.4%)
- 「学校生活を通じ、将来の生き方を考える様々な機会がある」（学校教育自己診断）肯定率85%以上を維持（R2：84.8%、R3：88.5%、R4：86.1%）
- (3) 高い志の獲得と希望進路実現
- ア 質の高い授業及び信頼関係に基づいた適切な進学指導により第一志望を貫き希望進路実現をめざすスタンスを徹底
- イ 進学講習及び実践的科学実験など高い志の実現のために学習意欲を喚起する取組を充実
- 5大学（東大・京大・阪大・神戸大・大阪公大）＋医学部医学科合格率40%以上をめざす（R2：40.7%、R3：38.0%、R4：未定）
- 4 機動的な学校運営体制を一層充実させ、教職員のたゆまぬ資質・能力の向上に取り組み、様々な活動の充実・活性化を図る
- (1) 機動的な学校運営体制の充実
- ア 教職員間の情報共有をより一層推進するとともにすべての教職員が学校運営の主要な局面の判断に主体的に関与できるシステムを構築
- イ 職員会議のペーパーレス化を図るとともに教職員が業務に意欲的に取り組める職場環境を整備
- ウ 安全衛生委員会の毎月開催と教職員の働き方改革の推進
- 「学校経営に、教職員の意見が反映されている」（学校教育自己診断・教職員）肯定率80%をめざす（R2：62.5%、R3：64.7%、R4：70.4%）
- 「学校は、教職員が意欲的に取り組める環境にある」（学校教育自己診断・教職員）肯定率90%をめざす（R2：59.4%、R3：67.6%、R4：88.9%）
- (2) 教職員の資質・能力の向上
- ア 三究会や校長による校内研修を充実させ教職経験年数の少ない教員の教員力を向上
- イ 授業力、進路指導力、生徒指導力、保護者対応力、人権に関する知識と指導力・対応力等を教員力と位置づけ、その向上を図る
- ウ 教員がカウンセリングマインドを持って生徒と接するとともに教育相談体制を整備し生徒支援を充実
- エ 三丘生としての自覚のもと生活を自己管理し、指示を待たずに主体的に判断して行動できる生徒の育成
- 「満足できる授業が多い」（学校教育自己診断・生徒）肯定率80%をめざす（R2：77.6%、R3：83.2%、R4：77.1%）
- 「悩みや不安を抱えた時、必要に応じて教育相談やカウンセリングを受けることができる」（学校教育自己診断・生徒）肯定率80%をめざす
- (R2：71.5%、R3：72.4%、R4：68.0%)
- 「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」（学校教育自己診断・生徒）肯定率70%をめざす
- (R2：59.5%、R3：60.9%、R4：58.3%)
- 「生活指導における先生方の指導は適切である」（学校教育自己診断・生徒）肯定率80%をめざす（R2：71.5%、R3：77.1%、R4：75.4%）
- 「人権、環境、福祉について学習する機会がある」（学校教育自己診断・生徒）肯定率80%をめざす（R2：84.0%、R3：79.2%、R4：62.9%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和5年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 自ら課題を発見し豊かな創造性と論理的思考力を持つて解決策を探る力の育成	(1) 学校設定科目「CSⅠ (Creative Solutions) 探究」及び「CSⅡ (Creative Solutions) 探究」の充実 (2) 読書の奨励により自ら課題を発見する力や創造性・論理的思考力を向上 (3) 生徒主体の活動を充実することにより自ら課題を発見し解決策を探る力を育成	ア 探究学習に関する高い授業満足度 ・他校の探究活動について研究 ・学校外のコンクール等への積極的参加 ・観点別評価の総括と評価方法の改善 ア 見聞を広め知識量を増やすことにより自ら課題を発見する力や創造性・論理的思考力を向上させる ・図書館だより充実 ・図書委員活動の活性化 ア 文化祭、体育祭等すべての生徒会主催行事及び部活動を生徒主体で企画・運営させることにより、課題に直面した時も自ら解決策を探る力を育成する ・生徒主体の行事運営の徹底 ・生徒会発案による改装後の食堂有効活用 イ 教科指導を含む教育活動全般の中で三丘スピリットに謳われている「自主自立」の重要性を指導 ・生徒の主体性を尊重した生徒指導 ・生徒が自らの学力を把握できる指導 ウ 生徒が主体的に運営する部活動を通じて課題を発見し協働して解決する力を育成 ・生徒の主体性を尊重した部活動指導 ・部活動指導員等を活用した専門的指導	ア「CSⅠ」及び「CSⅡ」満足度 90%以上 (R4:CSⅠ 88%、CSⅡ 88%) ア 生徒の読書冊数の向上に取り組み、平均読書冊数 15 冊以上 (R4:1 年:16 冊、2 年:13 冊) ア 「文化祭、体育祭や部活動において生徒は自主的に活動している」(学校教育自己診断) 肯定率 80%以上 (R4:77.1%) イ 「自主自立(自律)を尊重する伝統は活かされている」(学校教育自己診断) 肯定率 85%以上 (R4:81.5%) ウ 入部率 90%以上 (R4: 96.5%)	
2 上 で 他 者 と 協 働 で き る 人 材 の 育 成	(1) 異文化理解の基礎となる「4 技能を育成する英語授業」の実践 (2) 社会の様々な事象に対して当事者意識を持つことをめざした教育の充実 (3) グローバルリーダーとして異文化共生の精神を理解するために必要な海外研修の充実	ア 英語科教員が協働して教材を開発するなど、4 技能を育成する英語授業を構築 ・教員間の授業見学の促進 ・教材データ等の共有促進 ア 人権・環境・福祉等に関する教育の充実 ・関係科目における授業内容の充実 ・教職員人権研修及び人権教育の充実 イ 学校設定科目「CSⅠⅡ」指導内容の充実 ・CS 委員会の活性化 ・校外研修(視察)等への積極的参加 ア 米国リーハイ大学・国連研修の実施と内容充実 イ オーストラリア語学研修の実施と内容充実 ウ 諸外国から来日した高校生との交流など米国領事館や大阪観光局と連携した事業の実施と内容充実	ア「コミュニケーション等に必要な英語を学ぶ機会がある」(学校教育自己診断) 肯定率 80%以上 (1, 2 年生) (R4:80.0%) ア 「人権・環境・福祉について学習する機会がある」(学校教育自己診断) 肯定率 70% (R4:62.9%) イ 心理的安全性や協働についての学習を深め、マルチプルインテリジェンスを用いたグループ編成で協働できる集団を構築 ア～ウ 「国際交流に関する取り組みが充実している」(学校教育自己診断) 肯定率 80% (R4:73.8%)	

府立三国丘高等学校

3 確かな学力を育成し、併せて国内外でホンモノと出逢う教育機会を提供することにより、生徒が自らのキャリアを描く力の育成	(1) 第一線で活躍する研究者など斯界のトップランナーに触れる機会の充実 (2) 3年間を見通した進路指導プログラムに沿った進路指導・キャリア教育の充実 (3) 高い志の獲得と希望進路実現	ア 三丘セミナー、体感校外学習、NASA 研修 (SSH 事業)、実践科学実験の充実 ・三丘セミナーの内容充実 ・体感校外学習の内容充実 ・NASA 研修交流校との連携強化 ・身近なテクノロジーを活用した実験開発 ・ループリックを作成し定量的な評価 ・「探究ハンドブック」の改良 ・「実践科学実験教材集」の作成 イ 京都大学キャンパスガイド、大阪大学スタディツアー、SSH 東京方面体感学習、大阪大学医学部体験を含む大学訪問や医療系体験学習等の機会の充実 ア 進路講演会・懇談会・進路交流会・進路ホームルーム等を充実し進路指導部と各学年が連携した進路指導・キャリア教育を展開 ア 質の高い授業及び信頼関係に基づいた適切な進学指導により第一志望を貫き希望進路実現をめざすスタンスを徹底 イ 進学講習及び実践的科学実験など高い志の実現のために学習意欲を喚起する取組を充実	ア 「三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている」(学校教育自己診断) 肯定率 90% (R4 : 86.4%) ア 「進路情報の提供や卒業生との進路交流会開催など、適切な進路指導を行っている」(学校教育自己診断) 肯定率 90%以上 (R4 : 92.4%) 「学校生活を通じ、将来の生き方を考える様々な機会がある」(学校教育自己診断) 肯定率 85%以上 (R4 : 86.1%) ア・イ 5 大学 (東大・京大・阪大・神戸大・大阪公大) + 医学部医学科進学率 55%以上をめざす (R4 : 53.7%)	
4 機動的な学校運営体制を一層充実させ、教職員のたゆまぬ資質・能力の向上に取り組み、様々な活動の充実・活性化を図る	(1) 機動的な学校運営体制の充実 (2) 教職員の資質・能力の向上	ア 教職員間の情報共有をより一層推進するとともにすべての教職員が学校運営の主要な局面の判断に主体的に関与できるシステムを構築 イ 働き方改革の観点から、職員会議のペーパーレス化を図るとともに教職員が業務に意欲的に取り組める職場環境を整備 ウ 安全衛生委員会の毎月開催と教職員の働き方改革の推進 ア 三究会や校長による校内研修を充実させ教職経験年数の少ない教員の教員力を向上 イ 授業力、進路指導力、生徒指導力、保護者対応力、人権に関する知識と指導力・対応力等を教員力と位置づけ、その向上を図る ウ 教員がカウンセリングマインドを持って生徒と接するとともに教育相談体制を整備し生徒支援を充実 エ 三丘生としての自覚のもと生活を自己管理し、指示を待たずに主体的に判断して行動できる生徒の育成	ア 「学校経営に、教職員の意見が反映されている」(学校教育自己診断・教職員) 肯定率 80% (R4 : 70.4%) イ 「学校は、教職員が意欲的に取り組める環境にある」(学校教育自己診断・教職員) 肯定率 90% (R4 : 88.9%) ウ 安全衛生委員会の毎月開催 (R4 : 12 回／年) ア 「学校は、教職員が意欲的に取り組める環境にある」(学校教育自己診断・教職員) 肯定率 90% (R4 : 88.9%) 再掲 イ 「人権、環境、福祉について学習する機会がある」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率 70%をめざす (R4 : 62.9%) 「満足できる授業が多い」(学校教育自己診断・生徒) 80% (R4 : 77.1%) ウ 「悩みや不安を抱えた時、必要に応じて教育相談やカウンセリングを受けることができる」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率 70%をめざす (R4 : 68.0%) 「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率 60% (R4 : 58.3%) エ 「生活指導における先生方の指導は適切である」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率 80% (R4 : 75.4%)	